

減災ニュース No.32

2015年4月3日 減災プロジェクトチーム

杉並区の防災計画について

前号で都の防災計画をご紹介しましたので、引き続き杉並区の防災計画について調べてみました。区の防災計画は、震災編と風水害編、資料編の3分冊で杉並区のHPで全文閲覧可能です。

被害想定 都の被害想定をベースとした杉並区版。条件は冬の夕方M7.3の直下型地震で、死者556人、負傷者4万8千人、火災被害2万3千棟（焼失率19.8%）、避難者17万6千人（うち避難生活者11万5千人）を想定し、死者ゼロを目指すという減災目標を掲げています。

区民の防災 区民の防災対策実施の現状は、家具転倒防止38.6%、食料飲料備蓄63.3%、震災救援所訓練参加者数1万326人、総合震災訓練参加者数3千125人とのこと。食料備蓄率はけっこう高いですね。今後の課題としてはあがっていませんが、震災救援所訓練参加者はあまりに少ない感じ（区の人口55万人に対し2%弱）。これではほとんどの人は、震災が発生して初めて救援所を経験することになります。他の対策もちろん大事ですが、救援所訓練にもより多くの方々に参加してもらいたいものです。百聞は一見にしかず。お近くで救援所訓練のあるときはちょっとのぞいてみて、震災救援所とはどんな感じでどんなサービスが受けられるのか、是非体験してみてください。

不燃領域率 市街地の燃えにくさを表す指標で、建物の不燃化、公園等の空き地の状況から算出され、不燃化領域率70%超で延焼焼失率はほぼゼロと言われています。現状56%で平成32年までに70%とする目標ですが、依然、木密地域は326haと区の面積の1割弱もあり、達成は難しそうです。不燃化、耐震化とも行政の長期的な視野に立った施策に期待するところです。

医療体制 発災時には、杉並区医師会より医療救護班が医療救護所15ヶ所に派遣されます。医療救護所の医薬品が不足する場合は薬剤師会、都より供給されるとのこと。また後方支援病院としてブーエ記念病院他6病院が指定されています。しかし、一方では医薬品ストックセンターがなく、医薬品配送体制も確立されていないなどの課題もあり、早急な対策が望まれます。また区内10ヶ所（近隣では杉十小）には東京消防庁のヘリコプター緊急離着陸場が指定されています。

避難者対策 区内66の震災救援所と、救援所生活が困難な要援護者の方には第二次救援所8ヶ所（各地域区民センター、近隣ではセシオン）、更に専門性の高い支援が受けられる福祉救援所14ヶ所（老人保健施設グレイス他）が設置されます。また、震災救援所5ヶ所（和泉小、杉森中他）には負傷動物救護所が設置されます。ペットをお飼いの方は覚えておくと役立つかもしれませんね。

トイレ問題 震災救援所にトイレ用清掃用品があるのか心配で区に問合せたところ、ゴム手袋、棒タワシ他一式備蓄されているとの回答を頂きました。しかし仮設トイレ設置については、仮設トイレ業者との提携は無く、今後も提携の予定はない（マンホールトイレでしのいでほしい）とのこと、こちらは期待はずれでした。減災ニュース30号で期待できそうと書きましたが、確認不十分でした。

減災ニュースに関するご要望、お問い合わせ 松尾 5932-0083

町会HP <http://members3.jcom.home.ne.jp/wagamachi/>

